

本ワークショップの目的：

本研究会は、固体の低エネルギー光電子分光とナノサイエンス研究にテーマを絞り、議論を行うことが目的である。これらの研究分野は、2002年度から開始される光源・ビームラインの高度化後に低エネルギー小型リングである UVSOR の特徴を生かすことができるものである。

世界各地では、第三世代と呼ばれる最新鋭の放射光施設は素晴らしい性能を發揮しつつある。そのような世界的な状況の中で、第二世代光源である UVSOR としても、単なる老朽化対策としてではなく、第三世代の光源に匹敵する高性能化が要求されており、光源とビームラインの高度化が開始されようとしている。また、分子研に「分子スケールナノサイエンスセンター」が同じく 2002 年度に設置され、ナノサイエンス研究を行うためのビームラインも今後建設される計画になっている。

そのような状況のもとで、第 1 回目のビームライン高度化のワークショップが 11 月に行われ、主に、昨年度に行われた外部評価で改善が指摘された表面光化学と内殻分子分光を行っている 2 本の斜入射ビームライン BL2B1 及び BL8B1 の現状と将来計画に関する討論を行った。今回は、固体の光電子分光とナノサイエンスにテーマを絞り、世界および国内最先端の研究状況と UVSOR で今後行うべき課題について討論を行う。

提案者：木村真一，小杉信博